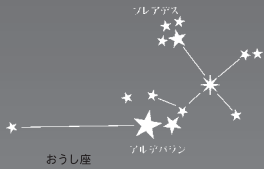


ポラリスを仰ぐ北の大地から



空知診療所勉強会

空知医師会 会長 明円 亮

空知診療所勉強会は、平成24年8月に第1回を開催し、今までに9回開催されています。この会は、某メーカーのプロパーから、新しい勉強会を立ち上げたいと相談され、「空知医師会では、病診連携を重要なテーマにすえ、活動してきたが、もう一歩進んで、砂川市立病院の医師個人と開業医との個人的な連携を深めるような会にして欲しい」と、お願いしたのがきっかけで誕生しました。

当地域の基幹病院である砂川市立病院は、平成27年4月の時点で、研修医を含めると88名の大所帯で、しかも1/3が毎年交替します。そのため、狭い砂川市で診療していても、なかなか顔を合わせる機会がなく、お互い顔がわからず、話したこともない人が多く、まして、その人柄などわかりません。私が27年前に開業した時に、患者さんの紹介などで気苦労した事もあり、このような会を立ち上げました。

毎回、砂川市立病院院長の平林先生に座長をしていただき、第1回目には、小熊道医副会長にも出席いただきました。毎回砂川市立病院の先生を講師にお招きし、講演をしていただき、その後弁当を食べ、ビールを飲みながら、少人数で顔の見える距離でのディスカッションを中心とした会です。講師は、さまざまな診療科の新しく赴任された先生に優先的にお願いするようにしています。途中からは、最初に開業医各自が自己紹介をすることとしました。さらに、最近では、最後に全員で仲良く記念撮影も行っています。

この会が今後も継続され、良好なドクター間の関係が築かれ、空知医師会の病診連携がより発展することを祈っています。



前期高齢者となって

滝川市医師会 会長 男澤 伸一

高校を卒業し47年目を向かえ、前期高齢者の仲間入りとなります。団塊の世代の後で高度成長、バブル、バブル崩壊、低成長と日本経済の浮き沈みを経験しましたが、生活としては、豊かで平和な時代を過ごした気がします。同級生の集まりの話題も子ども、孫の話になり、年金の話と変化しています。病気の話も多く、同級生が集まるとちょっとした無料医療相談を毎回開催しています。2025年問題が議論されていますが、正に後期高齢者となる私たちの問題です。老後の生活にまだ実感が無いこともあり、また、夫婦でいるのが多いこともあり、老後を認識し準備をしている同級生は少ないようです。子どもの世話にならない、なれないなどありますが、漠然と元気の間は在宅で、その後は施設で生活を希望する同級生が多いようです。介護が必要になった時には、家族のいない在宅介護になる可能性が多く、細やかな在宅支援が必要となります。また、施設介護でも高齢者の数も多く、自分に合った施設を選ぶのも大変な可能性があります。医療難民、介護難民、在宅難民を作らないような「地域包括ケアシステム」の構築が求められます。明日は我が身で責任重大です。

老人クラブではクラブ数、クラブ員共に減少し、高齢化で役員の担い手も少なくなっています。60歳から入会可能なのですが、一昔前と違い60歳前半で入会は考え難いでしょう。元気な団塊の世代が大勢います。シニアクラブと名を変えてでも、活動し、若き老人力を大いに発揮し、地域の活力となることはできます。また、町内会でも、地域のつながりが希薄になったなどで活動の低下がみられます。新しい感覚で、地域力が上がるような活動に参加していく事はできます。今後の地域力推進や活性化のためにも、後期高齢者になる前にできればと感じています。